

不登校

こんなお悩み、ありませんか？



学校に行きたがらない

子どもの居場所がない

学習してくれない

生活リズムが崩れている



他にもいろいろ…

まずは相談してみましょう！

迷ったら
コチラに

教育総合支援センター

TEL：0761-73-0118
(加賀市三木町二98番地1)



[詳しくはこちらから](#)

LINEからも
相談できます！

チャット相談ブリッジ

詳細は冊子の中をご確認ください



加賀市
不登校
サポートブック

BE
THE
PLAYER

自分で考え
動く 生み出す
そして社会を変える

加賀市教育委員会

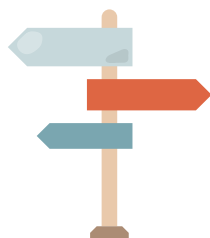
〒922-8622 石川県加賀市大聖寺南町 二 41 番地 TEL 0761-72-1111(代表)

加賀市教育委員会HP



この冊子について

加賀市では、不登校・不登校傾向の子ども、その保護者のみなさんのために、多様な学び場や居場所、相談窓口を用意しています。不登校といってもその背景や状態は人それぞれ。この冊子を使って、1人1人の状況に合った支援を見つけてみましょう。そして、まずはお気軽にご相談ください。



加賀市の不登校支援

近年、全国的に不登校の子どもが増え続けています。実際には、学校には行けても教室に入れない子どもなど、数字に表れない状況もあります。子どもを無理に学校に戻すのではなく、子どもの「社会的自立」を第一に考え、多様な学びの場や社会とつながることができる居場所を提供していくという方向へ、社会全体が変化しています。『加賀市教育ビジョン』が目指すのは「そろえる」教育から「伸ばす」教育。子どもが学校に合わせるのではなく、学校が変わっていく。そして、「それぞれのペースで、でもみんなで取り組める」活動をもっと増やします。より多くの子どもに、よりきめ細かな支援を、より早く届けます。

自分で考え
動く 生み出す
そして社会を変える
**BE
THE
PLAYER**

教育ビジョン

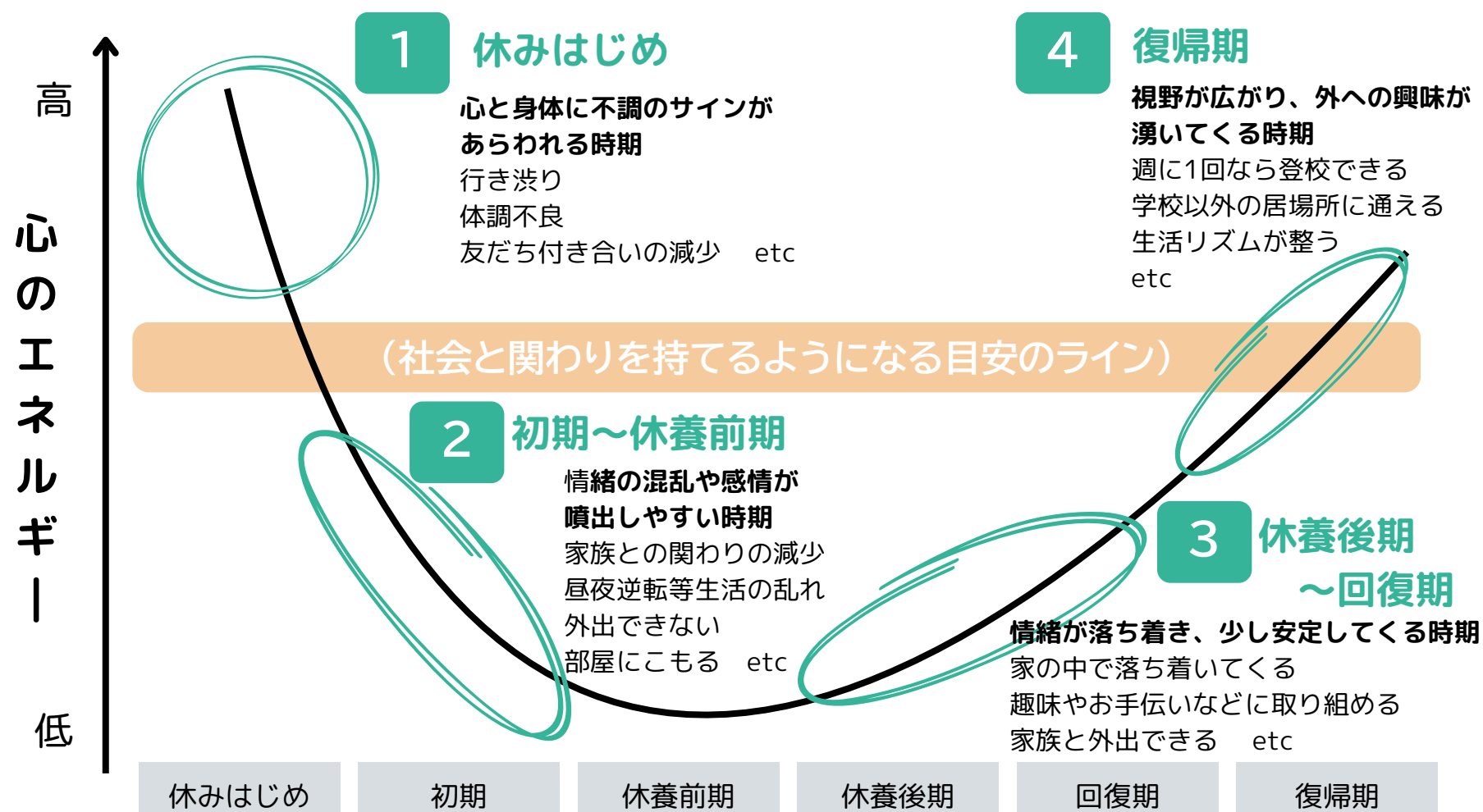


不登校支援プラン



不登校

休みははじめから復帰まで



心のエネルギーの4段階と保護者のサポートポイント

不登校は、多様な背景や要因によって、心のエネルギーが下がってしまっていて登校できなくなっている状態と言い換えることもできます。

1人1人の状況には違いがあり、道のりも様々なことは前提としつつ、一般的な不登校の状態は、4つの時期に分けられると言われています。(よく見られる子どものサインや行動例をグラフに掲載しています)

1 休みはじめ (予兆期)

たとえ登校していても苦しさを抱えながら教室で過ごしたり、頑張っている子どももいます。学校や家庭以外にも地域の居場所や、興味関心の持てるものを見つけたり、親子共に相談できる場所をつくっておくと安心です。

2 初期～休養前期 (混乱期)

原因を問い詰めたりせず、まずは休息をとり、心と身体を休ませましょう。サポートするお家の方も外部に相談をするなど、できるだけ無理をしない体制を整えましょう。

3 休養後期～回復期 (充電期)

外への関心が生まれ、少しずつ社会との接点を持てる準備ができます。家や身近なところで、好きな活動をしながらか元気(充電)を貯めましょう。可能であれば家での過ごし方のルールなど「小さな約束」を作ってみましょう。

4 復帰期 (リハビリ期)

外の世界・社会との関わりが少しずつ生まれてきて、変化が見られる時期と言われています。子ども自身から湧いてきた興味や関心に対して、きっかけになるアイデアを与えてみたり、新しいチャレンジに対する勇気づけの声かけをしてみると良いでしょう。

加賀市の取り組み① 子どもの居場所

様々な支援がある中で、どこにつながったらいいのか迷う方も多いかもしれません。まずは裏表紙に記載されている「教育総合支援センター」にお問い合わせください。子どもが落ち着いてきたら、家からでも参加できる「Beingさぽーとるーむ」や、学校外の居場所・学びの場である「Being」や「児童センター」等の利用もぜひご検討ください。



スクールサポートルーム（校内教育支援センター：SSR）

1

4

■ 取り組みの内容

様々な理由で教室に入るのが難しい子どもたちが安心して通える校内のスペースです。学級の時間割とは異なり、自分のペースで学習を進められるのが特徴です。令和7年度より市内すべての小中学校/義務教育学校内に設置しています。

■ 支援の事例

- 教室に入ることができなかった子どもが、SSRを活用することにより、学習習慣や生活リズムを取り戻し、教室に復帰することができました。
- 不登校だった子どもがSSRに通うようになり、支援員と勉強したり、給食を食べたりしながら、学校生活を送れるようになりました。



スクールサポートルームの部屋の様子

児童センター（市内6カ所）

3

4

児童センター
詳しくはこちら↓



■ 取り組みの内容

子どもたちの遊び場や図書室、学習室などがあります。様々な理由で学校に行きづらい場合に、子どもたちの居場所として利用する事ができます。

■ 支援の事例

Beingへの通室が距離的に難しい子どもたちに向けて、市内に6カ所ある児童センターで、平日の日中の受け入れ・自習のサポートを実施しています。



びーいんぐ

Being（教育総合支援センター内：旧のぞみ教室）

1

3

4

■ 取り組みの内容

個々の特徴に応じたペースで、活動や学習ができます。本人の希望により、学校生活と比較的近い生活リズムで1日を過ごすこともできます。常駐するスタッフが学習や運動の伴走をします。

施設内には、安心して楽しく過ごすことができるよう、「リビングルーム」を設置するとともに、地域の協力も得ながら教育プログラムを行うなど、地域や社会との多様なつながりの中で、子どもたちが安心して過ごし学べる場所となっています。

■ 支援の事例

子どもたちは各自が立てた計画で、スタッフとともに学習に取り組んでいます。当初は個別の対応を求めている子どもでも、スタッフの支援や他の子どもからの声掛けで徐々にみんなと同じ空間で学習したり、様々な活動に参加したりして、楽しい時間を過ごしています。



Being内「リビングルーム」

Being

詳しくはこちら↓



びーいんぐ

Beingさぽーとるーむ（メタバースの居場所）

2

3



メタバース空間「ビーさぽ」

■ 取り組みの内容

Beingさぽーとるーむは家からでもアクセスできるオンライン上の居場所。デジタル教材で自習したり、スタッフとお話ししたり、自分のペースで過ごすことができます。

■ 支援の事例

デジタルツールを活用したコミュニケーションにより、子どもたちにとって心のよりどころ（心の充電基地）となっています。スクールカウンセラーともつながり、登校へのきっかけにもなりました。

1 ~ 4 の番号は前ページの心のエネルギーの状態で主に利用が多い時期を目安として記載していますが、心の状態に関係なく全ての居場所を利用できます。

Beingさぽーとるーむに関することはBeingまでお問い合わせください

加賀市の取り組み② 子どもの相談窓口

不登校の初期～休養前期は、子どもの状態がなかなか上向かず、保護者にとっても苦しい時期です。支援機関とつながり、相談ができる状態をつくっておきましょう。お子さんの状況に合わせたサポートを一緒に考えます。「チャット相談ブリッジ」での相談も可能です。ご自身のスマホから、気軽にご連絡ください。



子育て応援ステーション

■ 取り組みの内容

- いろいろな子育て支援の情報提供
- 連携する子育て支援施設や関係機関への接続
- 個別のニーズに合わせた訪問支援や同行支援
- 電話相談、来所相談 etc

家庭内の相談を数多く受け付けています。

■ 支援の事例

妊婦期から子育て期(0歳～おおむね18歳まで)の保護者とこどもの相談に応じ、切れ目のない支援を行っています。保健師・保育士・社会福祉士・家庭相談員などが家庭のニーズを把握しながら、教育総合支援センターと連携して不登校の家庭にも関わっています。



子育て応援ステーション相談窓口
(かが交流プラザさくら内)

子育て応援ステーション
詳しくはこちら →



こども育成相談センター

■ 取り組みの内容

- 0～18歳までのこどもの発達に関する相談を受付けします。
- 必要に応じて、学校訪問や関係機関と連携します。
- 相談は、保育士・保健師・心理士・専門指導員(元教員)で対応します。



こども育成相談センター
詳しくはこちら ↓



■ 支援の事例

お子さんの「友達にきつい言葉を言ってしまう」「宿題がうまくできない」といった困り感の相談に、必要に応じて学校や関係機関とも連携しながら、お子さんへのかかわり方のアドバイスや関係機関とのつながりの提案をしています。お家の方が安心してお子さんと過ごせるよう相談を継続し伴走しています。

チャット相談ブリッジ

■ 子ども相談(小中学生)

学校で配られる1人1台端末から利用できるチャット相談サービスです。デスクトップのアイコンをタップして、すぐ相談を開始できます。どんなことでも、気軽に相談してみましょう。

■ 保護者相談

自分のスマホ(LINE)から利用できるチャット相談サービスです。「コドモン」で配布されるQRコードからLINEの友だち追加を行うと、相談を開始できます。

■ 支援の事例

周囲の大人に自分の気持ちをうまく話せない子どもが「ブリッジ」と仲良くなることから始まり、次第に子ども達からも自分の気持ちを話してくれるようになっていきます。

子ども相談：始め方



デスクトップにある「ブリッジ」のアイコンをタップするだけで、相談を始められます。初めて使う時はニックネームとパスワードの登録が必要です。

保護者相談：始め方

友だち登録後
「相談する」
をクリック



KATARIBA
Shape the Future

チャット相談ブリッジは、認定NPO法人カタリバの専門相談員が対応します(市外)

スクールカウンセラー / スクールソーシャルワーカー

■ スクールカウンセラー(SC)

子どもたちが日々抱える気持ちや悩みを聞く専門家。言いづらいことでも安心して相談する事ができます。担任の先生や教育相談の先生を通して、予約をして相談します。

■ スクールソーシャルワーカー(SSW)

子どもたちを取り巻く環境や背景を踏まえ、個々の課題に対応しています。そして、家庭と関係機関等をつなぎ、健やかな社会生活を営むことができるよう支援しています。

■ 支援の事例(スクールカウンセラー：SC)

朝になると腹痛を訴え、欠席が増え始めた子どもがスクールカウンセラーと面談したところ、友人関係の悩みがあることが分かりました。担任は、スクールカウンセラーと協力して仲間づくりの授業を続けた結果、腹痛などの症状が落ち着き登校できるようになりました。

